

■平成30年度第1回会津美里町観光まちづくり推進協議会議事録

日 時：平成30年10月25日（木）13:30～15:10

場 所：会津美里町役場本郷庁舎ふれあいセンター2階会議室

出席委員：石原委員、手代木委員、星野委員、高梨委員、石田委員、小林委員、柴崎委員、阿部委員、竹内委員（計9名）（欠席委員：鈴木委員、長谷川委員）

事務局（商工観光課）：国分課長、高橋係長、小林主任主査

○委嘱状交付

- ・町長より委嘱状交付（代表 石原 直）

1. 開会（商工観光課長）

2. 町長挨拶

会議に先立ちまして、一言あいさつ申し上げます。

皆様には、日頃より町政全般におきまして、ご理解とご協力を頂いておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、現在、観光振興における各種事業につきましては、会津美里町観光振興計画やアクションプランに基づき、将来像であります、「いればいるほど元気になれるうるわしの里」の実現に向けて、鋭意事業遂行しているところです。

今年度で観光振興計画が策定されてから3年目を迎えております。議会からも注目を浴びており、本町における観光施策は極めて重要な位置づけにあると考えております。こうしたことから、この協議会においては、皆様よりご意見をいただきながら、計画に基づいた事業が展開されているか、チェック機関として事業評価や効果検証を行いながら必要に応じた施策や事業の改善・見直しを行うなど進捗管理を行っていただくこととなりますので、引き続き、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、本日の会議が実り多きものになりますよう、また、これからの観光振興への一助となりますようご期待申しあげ、簡単ですが挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 委員紹介

<石原委員>

- ・NPO 法人観光情報流通機構理事長。

<手代木委員>

- ・会津美里町観光協会理事。

<星野委員>

- ・会津美里町商工会女性部長。

<高梨委員>

- ・会津美里振興公社取締役総合管理部長。

<石田委員>

- ・会津交通(株)高田営業所長。

<高梨委員>

- ・会津美里振興公社取締役総合管理部長。

<柴崎委員>

- ・若手農業従事者。

<阿部委員>

- ・会津まちづくりパートナーズ合同会社代表。

<竹内委員>

- ・会津美里こらんしょ Woman 代表。

(町職員紹介)

4. 委員長及び副委員長の選出

- ・委員長に石原直委員を選出。副委員長に高梨宣浩委員を選出。

5. 議事

<委員長>

- ・それでは引き続きまたよろしくお願ひしたい。
(1) から (4) までを事務局よりまとめて報告願う。

<事務局>

会議の趣旨について改めて説明すると、観光振興計画の106ページから、会津美里町における観光の推進体制と進行管理とある。観光に関わる団体や事業者、或いは町民や行政で構成する観光まちづくり推進協議会が主体となって、PDCA による継続的な進行管理を行っていくことになる。進行管理においては次のような視点で評価検証をお願いしたい。・本計画での目的に沿った施策や事業内容となっているか・施策や事業の実施において実施主体と関連主体の連携が図られているか・施策や事業の実施スケジュールは効果的な時期に行われているか・施策や事業は、目標値の達成に向けて貢献しているか。

こうしたことを踏まえて、この後説明する内容について、評価をお願いしたい。

(1) 基本目標の達成状況

(事務局より資料説明)

(2) 施策に対する評価 (H29)

(事務局より資料説明)

(3) 平成 30 年度の事業進捗状況

(事務局より資料説明)

<委員長>

ワイナリーの状況について、何か小林委員から話はあるか？

<小林委員>

現在、醸造設備が入って、今、醸造免許が交付されるのを待っている状態。建屋は、内装工事がだいたい終わって、これから外装工事に入る。来年の4月にプレオープン、年号が変わる5月にオープンしたいということで考えている。

<委員長>

もちろんワイナリーなので、施設としてはワインを作る以外に何かあるか。

<小林委員>

ショップを考えている。

<委員長>

ショップはすぐに営業されるのか。

<小林委員>

すぐではなく、少し時間をおいて、こちらは6月か7月を予定している。

<委員長>

ワインはいつ頃から飲めるのか。

<小林委員>

早いものだと1月下旬から2月くらいには飲めるものはある。

<委員長>

了解した。今、事務局等から説明のあったことに対して、何かご質問やご意見はあるか。今までの話を聞いていて、29年度の実績ということだが、伊佐須美神社の120万人という数字の信憑性もあるが、それ以外では前年比でプラスになっている。そこから推測すると、ここだけが落ち込んでいるということだけでは考えにくい。少なくとも横ばいくらいにはなっている気がする。今、日本全体で見るとインバウンド旅行客でまぎれているが、日本国内の旅行客は減っている。そうした意味で、観光施設における入込数が前年比よりプラスになっていることは頑張っている気がする。前年度からの実績に対してそう感じた。その他皆さんの方からご意見等あるか。

<高梨委員>

今委員長が話したように、国内の旅行客については、我々も目の当たりにしており、減っているのかなと感じる。後は季節ごとにより変動がある。桜のシーズンや紅葉のシーズンは年々増えている感じがする。その間の6月・7月は年によって非常に少なくなっている。農家の方は、この時期に旅行に行くが、他の地域の農家の方々がこちらに来るようなことがどうしても少ないというのが分析できると思う。

<委員長>

観光協会としては平成29年度の意見はあるか。

<手代木委員>

観光入込については、どのあたりが含まれるのか。

<事務局>

調査地点としては、中田観音、伊佐須美神社、会津本郷焼窯元、あやめの湯、湯陶里、新鶴温泉健康センター、ほっとぴあ新鶴となっている。イベントでは、あやめ祭り、せと市、大俵引き、文殊祭、せせらぎ公園となっている。イベントについては、県に報告しており、公表の数字となっており、年間1万人以上、特定月5千人以上の基準を満たしているものを報告している。

<委員長>

会津本郷焼窯元の数字には夏や秋のイベントの数字も入っているか？

<事務局>

せと市については、別に報告しているので、この数字は焼物組合への来場者数となっている。

<委員長>

せと市はどのくらい入っているのか。

<事務局>

公表している数字だと3万人としている。聞く人によっては、多かったという人と少なかったという人がいたが、時間帯によっては、例年より後半の方に人手があったようだった。

<委員長>

桜のシーズンの数字はとれるか？

<事務局>

その数字はとれないが、エージェンツ訪問を通して桜のシーズンに合わせて旅行商品を作成してもらっているので、かなり大型バスが入っている。旅行会社に聞けばどのくらい入っているかカウントはできるが、今手元に資料はないが、他の旅行会社でも入っているので、いつもよりは入込はあると思う。

<委員長>

どのくらいの人が入ってきているのかというのは大事な指標だ。今定点観測しているところで充分なのかと考える。観光客が知らないところに行っている可能性もある。ここにはほっとびあの数字は含まれているのか。

<事務局>

含まれている。

<委員長>

了解した。その他何かあるか。

<星野委員>

本郷温泉湯陶里の売却とあるがどういうことか。

<事務局>

町内には温泉施設3か所と宿泊施設のほっとびあ新鶴があるが、現在、温泉施設等の利活用処分方針に基づいて検討している。町に3つの同様の温泉施設があり、同じ時期にそれぞれ建設しており、今後大きな修繕も考えられる。対応策の一つとして民間へ売却できるものについては売却しようという方針である。本郷温泉は中でも営業が安定している施設なので、逆にそういう施設の方が売却できるものと考えていたので、まずは湯陶里の売却から進

めている。計画としては最終的には温泉施設を1つにしたい考えであるが、その他の施設については平成37年度を最終年度として、そこまでに利活用の検討を進め、売却等の処分をしていきたい。

<石田委員>

私は、旅行業を生業としているが、今年は桜の開花時期が早く、キャンセルになるケースが多かった。そういうのが減少の一つかなと。もうひとつは、バス料金が軽井沢と北陸道の事故以来、高くなってきており、ツアー客が全国的に減ってきている。首都圏からのお客様などはJRを使って駅からバスを利用するなど、そうした対応が出てきている。そうしたことで、伊佐須美神社に来られるバス利用の団体のお客様はそんなに増えていないのではと思う。二つめは、ほっとぴあの宿泊施設についてはいいと思うが、あやめの湯や湯陶里の入場者を観光客の人数に加えることが果たして適切なものか疑問に思う。

<事務局>

確かにおっしゃるとおりで、観光客に含めていいものかというご指摘のとおり、町内の方の温泉施設の利用が多いところもあるが、湯陶里だと6割が町外からの利用となっている。

<高梨委員>

カウントの仕方としてはポイントカードがあって、そこには住所が記載されているので、全員ではないが、そこから確認ができる。全体合わせると6割が町外の方で、合併前の湯陶里は7割を占めていた。

<星野委員>

どのあたりからの入ってくるのか。

<高梨委員>

湯陶里であれば、若松市の南部からと下郷からで、新鶴健康センターであれば坂下方面や若松の北部からが多い。

<石田委員>

喜多方の桜が三春の桜を逆転した。三春に行かれる方より喜多方に来られるお客様の方が増えてきている。喜多方のしだれ桜の並木道が日本一長い。三春は周囲に食べる所がない。喜多方市は美術館もあって、桜と美術館で併用して展示会なんかをすると人が入ってくる。最近、喜多方市はPRが上手だと感じる。

<委員長>

大変貴重な情報だ。特にご婦人方は買い物と食は必須項目である。

<竹内委員>

こらんしょ woman の事業では、平成 29 年度には本郷裏路地ツアーをやった。町内外から 26 名の参加があった。また、ターンズツアーでは 2 月と 9 月にツアーを組んでもらい、評判もよかった。この他まちなか再生事業にも参加しており、可能性を秘めていると思う。3つの地域を活かしたまちづくりができたらと感じる。本郷焼と言っても本郷焼を感じる場所がない。案内看板や街灯などに本郷らしさを出したい。窯元へ入りやすい雰囲気も大事。個人では限界があるので、町や窯元も協力してほしい。ゴミもひどい。きれいなまちづくりをしてほしい。

<委員長>

確かに焼き物の町なのに風情が感じられない。瀬戸市に行くと駅を降りるとセトの町に来たということが分かる。ここは雰囲気が伝わってこない。資源がないのではなく、今ある資源をどうやって見せるかが大事。町の中が綺麗すぎる。もっとセト物であふれていてもいいのではないか。陶粘土はどこから取っているのか？

<手代木委員>

陶土山から取っている。あとは窯元ごとに購入している。

<柴崎委員>

インバウンドはどういったところが来ているのか？

<事務局>

Wi-Fi の利用状況からみると英語圏の利用が多い。

<委員長>

なぜ美里町なのか表現することが大事。なぜおいしいのか。今あるものをいかに表現するか。この米はおいしいという理由やストーリーが観光にはほしいところ。

<小林委員>

会津ユースホステルの長谷川さんは、もともとは県外の方で、会津盆地の景色を気に入って、食べ物も美味しく、理想的だということで会津に移住することになった。

<委員長>

確かに景色は雄大で、ほど良くよい景色だ。盆地としては理想的である。

<阿部委員>

観光とは違って来るかもしれないが、町の観光といえばやはり伊佐須美神社ではないかと。政教分離の問題もあると思うが、高天原で盆踊りをやっているが、以前から比べると人がいない。出店も少なくさびしかった。高田盆踊りは会津磐梯山よりも古い。町民の人達が来てくれるようなイベントであってほしい。ここにも観光客を持ってこれるのでは。全国で誇れるものがたくさんあるはずだ。

<高梨委員>

本郷から大内宿への車の割合が以前は8%程度しかなく認知度が低かった。大内は不便さの中で発展してきた。湯の上がダメになって、甲子道路が完成した。観光施策は時間がかかる。続けることが認知度の向上に繋がる。

<石田委員>

コシヒカリの原点は会津だ。昔は糠釜でゴハンを炊いていた。後継者不足がこれからの課題の一つとなってくる。

<委員長>

皆さんから色々と意見が出たようだが、実績については、対前年比で見れば、概ね良好だったのではないかと思うので、一定程度評価してよいと感じた。空き家や民泊の活用も誘客の手段となるが公社が運営するシステムがあればと思う。集合論ではないが、1+1が5になるような仕組み作りづくりが必要になってくる。

6. その他

<事務局>

- ・昨年度の第2回目の協議会で、委員の任期について提案したが、特にメリットが感じられないとの意見があったので、このままの任期（1年）でいくこととし、再任もできると規定しているので、その都度またお願いしたい。
- ・次回の会議日程については、1月中旬から2月上旬を予定。また、来年は、開催時期を見直して第1回目を6月か7月に実施し、第2回目を次年度の予算に皆さんのご意見を反映できるよう11月頃に実施できればと考えているのでよろしくお願いしたい。
- ・今回の会議の謝礼については、11月5日に指定口座に支払い予定。

7. 閉会（石原委員長）